

私たちの身の周りに情報があふれている現代において、世界で今何が起きているのかを把握していることが当然視されているという印象を抱くことがある。たとえ学校で習わなくても、フランスの大統領の名前や西アジアの紛争などについての知識は、今や常識だとされているのだ。しかしこのような状況は、国際情勢に興味のない者にとってはたいへん苦痛である。情報というものが、程度の差はあれ主体的な行動——テレビのスイッチをつけるとか、新聞を購入するとか——により得られるものであるからだ。興味がないければ主体的な行動なんて起こりようもなく、それでも情報を得ようとするのは、上記のように、現代を把握しておくことが現代人の義務だからである。そして、最も多くの情報量を提供するのはインターネットであろう。ではインターネットがあれば、その他の情報媒体は必要ないのであろうか。事態はそうも簡単ではないように思われる。

確かにインターネットは、情報源としての利点を多く持ち合わせている。テレビとは違って好きな時間に何度でも情報を見聞きすることができるし、新聞のように収納場所もとらない。自分の知りたき情報を検索しても得ることができないということはいさぐく稀で、ほとんど全ての情報を瞬時に見つけられる。

しかし、私はここ半年ほど新聞のない生活をしてみて、あることに気付いた。新聞がなければ、知ることになる情報のジャンルに大きな偏りができてしまうのである。ここで代表的検索サイトであるYahoo!を思い浮かべてもらいたい。ニュースは画面の右端にトピックスが表示されているのみで、詳しく知りたいものについては、そこをクリックする。私は芸能やスポーツには興味があるが、政治・経済には関心がないので全くクリックしない。そうなるともはや現代の世界情勢についていけなくなり、非常識な現代人となってしまうのだ。

新聞を購読していた頃は、政治経済面が第1800字

ip035-2

題:

名前:

一面に載っていることが多いということもあり、多くの義務感にあと押しされて政治経済面を読んでいた気憶がある。芸能・スポーツニュースを得るついでに、かなりの動機ではあ、たが。しかしインターネットにおいてはワリッワしない限り、全く政治経済の情報に触れることはない。以上のような理由により、私は情報源がインターネットだけになることに賛成できない。